

シニアマーケティングレポート 「もう一度シニアアプローチを考える」

3 人に 1 人が幸福感を感じていない 55～65 才

株式会社ジェイアール東日本企画「jeki シニアラボ」では、「もう一度、シニアアプローチを考える。」のテーマのもと、株式会社ビデオリサーチ(以下、ビデオリサーチ)の研究データ「シニア価値観セグメント」と連携。シニアアプローチのターゲットを「55～65 才＝次の生活スタイルに変わらなければならない年代」に設定し、その中でも、これからの生き方を決めていない層「モラトリアムシニア※」に着目してきました。

一般に、高齢になるほど「幸福感」が向上するといわれており、様々な機関が調査し、同様の傾向を発表しています。

しかし、この度当社が、ビデオリサーチ「ひと研究所」の協力を得て行なった調査では、55～65 才のうち、約 3 割を占める「モラトリアムシニア」に限っては、幸福感の向上が見られないことが判りました。

3 人に 1 人が幸福感を感じていないことは、日本人全体の幸福感に大きな影響を与え、さらには日本の消費経済の低迷に影響を与えている可能性もあります。

本レポートは、今回の調査のエッセンスをまとめたものです。当社ホームページでダウンロードしてお読みいただける小冊子の形態にありますが、ここでは、その一部をご紹介します。

※「モラトリアムシニア」とは

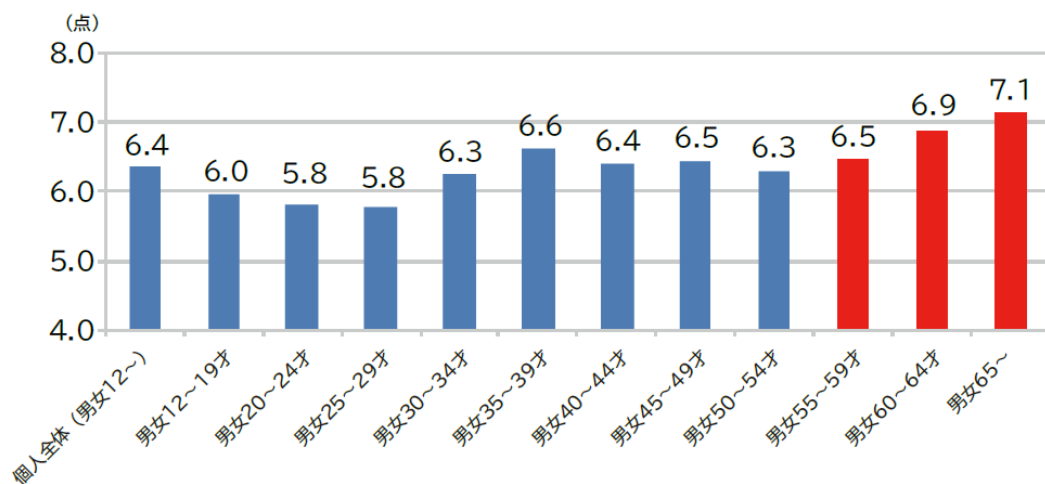
株式会社ビデオリサーチ「ひと研究所」との共同研究により、シニア価値観セグメントのひとつとして発見された層。「社会に取り残される不安感や、人や社会とつながりたい思いは強いが、その術がわからず、これからの人生をどう過ごしたらよいのか模索している」という意識を持っているシニア層。

幸福の実感が顕著に低い「モラトリアムシニア」

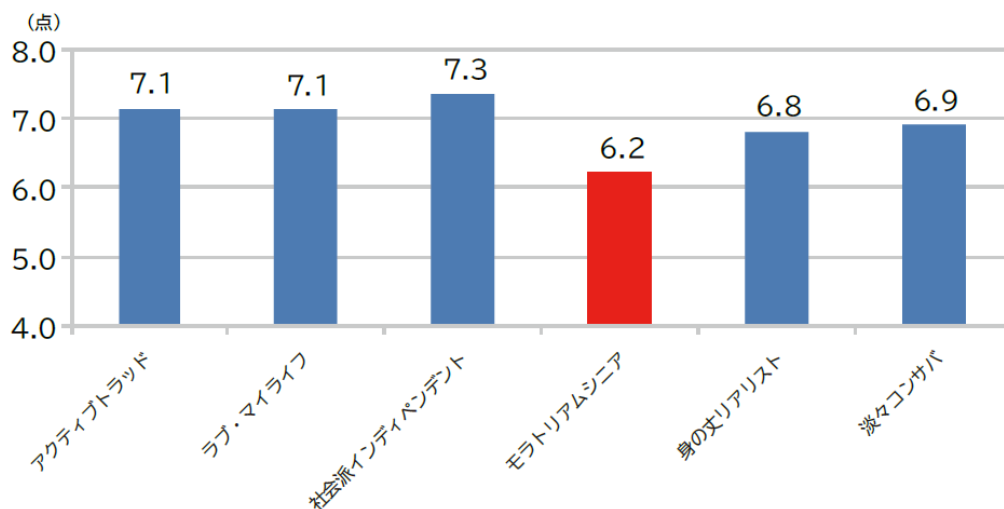
一般的に、年齢を重ねるほど「自分は幸せだ」と感じる人が多くなります。シニアは、現役時代の仕事や家庭での忙しさや悩みから解放され、今が楽しい、自分の人生はいい人生だ、と感じ始めるからでしょう。

今回の調査でも、「60才以上の幸福度」の点数が高く出ましたが、シニアのセグメント別に見ると、「モラトリアムシニア」は他のシニアと比較して幸福の実感が顕著に低いという結果がでました。

●幸福度平均点(5才刻み)



●55~65才の幸福度平均点(セグメント別)

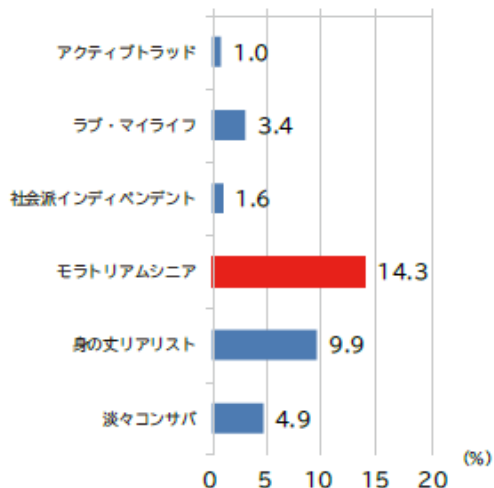


幸福の実感が顕著に低い「モラトリアムシニア」

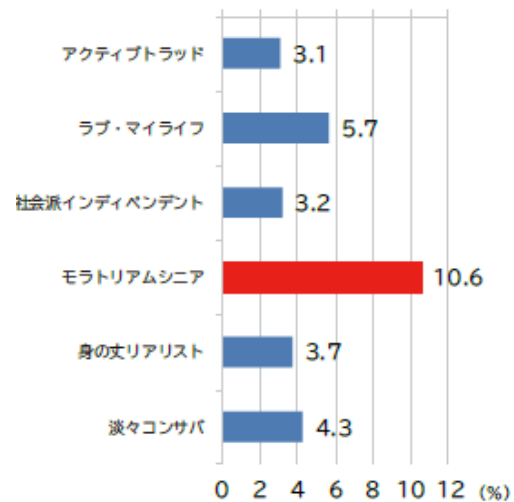
「モラトリアムシニア」の幸福度の低さには、何が影響しているのでしょうか。

顕著なのは「交友関係の少なさ」です。モラトリアムシニアは、友人・知人との交流、近所・地域での交流の両方で「その少なさに不安を感じている」人が他のセグメントよりも多く、「孤独を感じる、自分の居場所がない」との回答も目立っています。

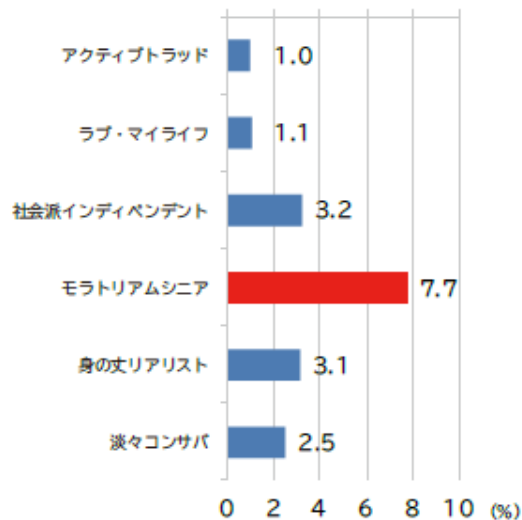
●生きがいがないと感じている



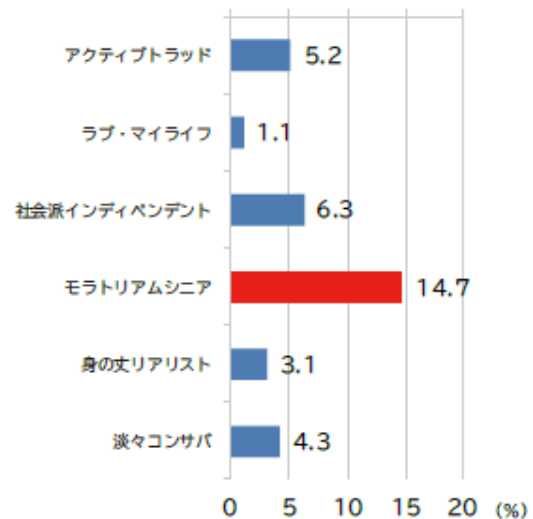
●孤独を感じる



●自分の居場所がないように感じる



●近所・地域での交流が少ない不安を感じている

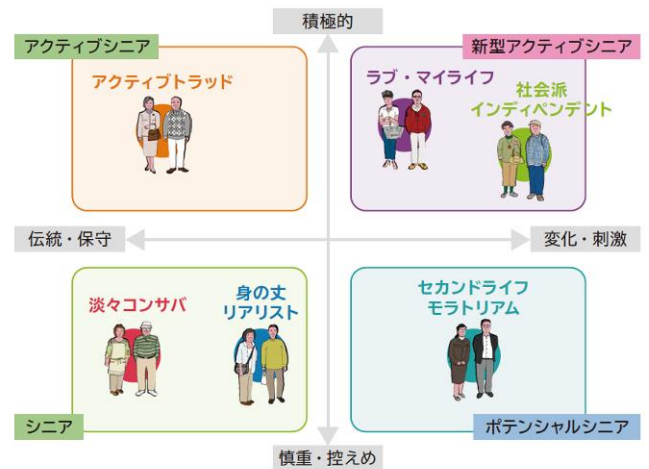


調査概要

- 調査方法 ACR/ex のフレームにて調査
訪問による調査対象者説得、電子調査票による調査
※回答者全員に通信機能付きの回答専用端末(タブレット端末)を貸与
- 調査エリア 東京 50km 圏
- 標本抽出法 ARS(エリア・ランダム・サンプリング)
- 調査対象者 12~69 才の男女個人
- 有効標本数 4,971s (うち 55~65 才男女:845s)

「モラトリアムシニア」について

考え方も行動も多様化・複雑化しているシニア層を理解するための新たな切り口として、“価値観”で分類したセグメントが「シニア価値観セグメント」です。価値観は6タイプに分類され、それぞれを行動が積極的か控えめか、志向が伝統的・保守的な傾向か変化や刺激を好む傾向かという2軸4象限上にプロットしています。※ビデオリサーチの研究による



●アクティブトラッド(構成比:11.4%)

リタイアして悠々自適に暮らしている方が多く、お金有り時間有り。消費も行動も積極的だが、伝統的な家族観が強い。いわゆる「アクティブシニア」と言われてきたイメージに最も近い。

●ラブ・マイライフ(10.4%)

若さや美への追求心、アンチエイジング意識が強く、新しい物好きで情報通、流行にも敏感。「新型」のアクティブシニアのひとつ。

●社会派インディペンデント(7.5%)

人とのつながりを大事にし、新しい人脈を築くことや世代を超えた交流にも意欲的。「新型アクティブシニア」のもうひとつのパターン。

●セカンドライフモラトリアム(32.3%)

社会に取り残される不安感や、人や社会とつながりたい思いは強い。が、その術がわからず、これからの人生をどう過ごしたらよいのか模索している。 ※jekiとビデオリサーチの共同研究では「モラトリアムシニア」と表記

●身の丈リアリスト(19.1%)

何かとお金がない、お金がかかるからできないという諦め感を口にする。お金を本当に持っていないわけではないが、将来不安から消費行動は消極的。

●淡々コンサバ(19.2%)

現在の生活に十分満足していて、これ以上に多くを望まない。強い主張をもたず、日々淡々と平穏な暮らしを送っている。従来言われてきた「高齢者」イメージに最も近い。

モラトリアムシニア

*構成比データソース:ビデオリサーチ「ACR/ex」2017 年 4～6 月調査より 東京 50km 圏 55～65 才男女(N=845)を抽出して算出